



ともに、
つくる。
考える。

武蔵野美術大学
産官学共同プロジェクト

WAMU

ともに、つくる。考える。



本学では、産官学共同プロジェクトを実践的な教育研究の場として捉え、教員だけでなく、学生も含めた取り組みとして実施しています。

プロジェクトに参加する学生たちは、アート・デザインを学ぶ中で培ったクリエイティビティを活かすだけでなく、企業や自治体等、様々な学外機関と一緒に課題に取り組むことで、多様な視点や考え方を取り入れていきます。

また、内外との活発なコミュニケーションを通じて、学生たちの思考の中で化学反応が起こり、斬新で創造的なアイデアや作品が生み出されます。

このような特徴を持った本学の産官学共同プロジェクトは、依頼をいただいた方々との相互作用により、これまでも意義ある成果を残してきました。

2019年度より、市ヶ谷キャンパスが開校し、新学科・新大学院がスタートします。

今まで以上に、社会の課題やニーズに幅広く対応していく環境が整いました。

創造力豊かな学生たちと一緒に考えて、取り組んでいくことで、新たなチャレンジを起こすきっかけになりたいと考えています。

田中桂太

工芸工業デザイン学科 教授
学長特命補佐（社会連携担当）



独創的な課題発見、解決へと導くクリエイティビティ

造形的思考力

自ら新しいモノ・コトを創造する力

アートやデザイン領域の造形教育を学ぶ中で培う
造形する力、構想する力

柔軟な発想力、想像力、構想力
イメージ形成力
観察力
批評力

論理的思考力

知識を活かし考える力

アートやデザイン領域に加え、
幅広い教養科目を学ぶ中で培う思考する力

論理的・合理的な考察力
情報処理力

表現能力／対話能力

美術大学ならではの他者に伝える表現能力、
他者とともに考える対話能力

プレゼンテーション力
コミュニケーション力

課題の発見 本質的な問題の解決

ロゴやパッケージ、プロダクトなど「形のあるもの」から、サービスやブランディング、地域活性など「形のないもの」まで、企業や自治体等が抱える多岐にわたる課題に対して、私たちは、美術大学らしいアプローチで解決方法を探ります。

その特徴は、アートやデザイン領域の造形教育を学ぶ中で培う「造形的思考力」、アートやデザイン領域に加え、幅広い教養科目を学ぶ中で培う「論理的思考力」、そして作品の講評やプレゼンテーションで培った美術大学ならではの他者に伝える、他者とともに考える「表現能力／対話能力」です。こうした豊かなクリエイティビティが、激しい環境の変化や未来が予測しづらい現代において求められおり、産官学共同プロジェクトにおいても課題の解決に活かされています。

そして、企業や自治体等とのコラボレーションが相互作用／相乗効果を生み、「新しい価値」を創造するようなプロジェクトを目指します。



Case 01
千葉県
いすみ市

いすみ市大学生等連携地域活性化事業
(地域交流の場のデザイン提案)

千葉県・いすみ市
副市長

早川卓也 氏

Interview

想定を超える取り組みで 地域に活力を



いすみ市では、移住定住の施策とともに、市と関わる人口を増やす取り組みのひとつとして、ムサビをはじめ複数の大学と域学連携に関する協定を結び、地域の課題解決や活性化を目的とした活動を行ってもらっています。

ムサビはの中で唯一の美術大学ですし、当初は市内で生産される商品のパッケージデザインなどで連携してもらっていました。しかし、学生はモノのデザインだけではなく、イベントや社会の仕組みなど、様々なことを学んでおり、漁港でのファッションショーやライフスタイルの提案、小中学生への造形ワークショップなど、私たちの想定を超える企画が実施されました。他大学は調査や研究が中心ですが、ムサビの学生たちの取り組みは子どもにも親しみやすく、また、学生自身が楽しんでいる姿も印象的で、何かを作り上げていくところに美大ならではの特徴が感じられました。学生が地域の中で活動したことで、市の将来を担う子どもたちには、美術大学という選択肢を示す機会にもなったと思います。

このようなムサビの活動が、関わった市民や小中学生だけでなく市役所の職員にもいい刺激を与えています。より地域を巻き込んだ取り組みへと発展させたいという思いもありますので、行政側も学生たちがチャレンジできるフィールドを用意したいですし、そうした新しい試みをいすみ市から発信することで、地域に活力をもたらして欲しいと考えています。

プロジェクト概要

2016年度より千葉県いすみ市と地域活性化の調査研究や地域課題の解決などを目的とし、域学連携に関する協定を締結しています。いすみ市の大原漁港荷捌場でのファッションイベント「MAU COLLECTION 2016『DEN』」(2016年)や国吉神社での展覧会「祠と精霊」(2017年)といった、市の魅力を発信するためのイベントから、フィールドリサーチを通した市民や移住者への「ライフスタイルのデザイン提案」(2016年)、「地域交流の場のデザイン提案」(2017年)など、「美術・デザイン」を用いた特色のあるプロジェクトを実施しています。

デザイン情報学科では普段からグループワークも数多く授業内で取り入れています。具体的な地域フィールドを設定してのリサーチからデザイン提案までを実践的かつトータルに取り組める機会は学生たちにとって実に貴重な体験。そこには本番さながらの生きた教育があります。

担当教員

造形学部デザイン情報学科
井口博美 教授

※ 2019年4月より造形構想学部クリエイティブイノベーション学科と兼任



プロジェクト・スケジュール ※2017年度の場合

2017年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2018年 1月	2月	3月
プロジェクト キックオフ	課題発掘・意見交換のためのワークショップの開催				学生参加による現地 フィールドリサーチ		問題解決のための ワークショップの開催		中間報告会 の開催	将来ビジョンの策定と 報告書作成		成果報告会 の開催



Case 02

株式会社
ブリヂストン

将来モビリティデザイン研究

株式会社ブリヂストン
先端デザイン創出部
デザイン第1ユニット

糸井大太 氏



Interview

未来社会を想像／創造する モビリティデザイン

カーデザインを学ぶ学生たちと2030年のモビリティデザインをテーマに、週に1度、9回にわたる授業を2013年から行っています。

モビリティ社会の変化が加速する中で、「私たち自身もその変化を創造する必要がある。より広い視野を得るために、今後のモビリティを支える学生と一緒に未来を考えたい」というところから出発した取り組みです。

ブリヂストンからは、デザイナーだけでなくエンジニアや研究者も参加し、自動車の足回りやタイヤのメカニズムを、リアリティを持って伝えながら、学生には未来社会と新しいモビリティがどのようなかを具体的に考えてもらっています。2030年をテーマとしたのは、現在の技術を起点にしながら、学生と一緒に未来社会の想像を自由に巡らせることに価値があると考えてのことです。

2018年の学生のアイデアの中で自動運転とそうでない車が混走する社会の問題を考察した作品があり、モビリティ社会の変化に伴う価値観の変化について、若い皆さんと議論することができました。授業を始める前はこのような議論をする機会がなかったので、とても刺激になった貴重な経験でした。

授業の成果は、大学の近くにあるブリヂストンの企業博物館で展示しますが、特に小中学生の間で人気のある企画になっています。近隣の学校や地域とつながる機会をつくることができた点もこの授業のひとつの成果になっています。

プロジェクト概要

タイヤやスポーツ用品のメーカーであるブリヂストンと、2013年度より継続して実施しているプロジェクト。教員とブリヂストンのデザイナーによる指導のもと、モビリティデザインを志す学生が、2030年頃の社会や生活の変化、モビリティ技術の進展についてビジョンとコンセプトを想定し、足回りを含めたモビリティデザインの全体像を提案。研究の成果は、毎年、企業博物館「ブリヂストンTODAY」（東京都小平市）のイベントスペースで、「ブリヂストン×武蔵野美術大学コラボレーション企画」として展示され、一般公開されています。

自動運転やコネクテッド等の技術革新やこれからの自動車社会の変革を学び、現在の延長上にはないモビリティデザインに挑戦したプロジェクトです。独善的な思考にならず、説得性ある魅力的なデザインの創出を通じて次世代の潮流を提案する貴重な経験になっています。

担当教員

造形学部工芸工業デザイン学科
稲田真一 教授



プロジェクト・スケジュール ※2018年度の場合

2018年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2019年 1月	2月	3月
		プロジェクト キックオフ	アイデア展開/ 3面図制作/ モデル制作		最終プレゼンテーション		作品展示					



Case 03

新潟市
西蒲区

わらアートまつり



新潟市西蒲区 × 基礎デザイン学科

実施期間：2008年4月～（継続中）

2008年より続く、新潟市西蒲区との町おこしプロジェクト。長く地域に根づくことを目標に、地元で見落とされていた貴重な資源である「稲わら」の魅力を最大限に引き出した巨大なアート作品を制作したことから、わらアートまつりが始まりました。稲わらを使った作品は、地域の方々に愛され定着し、イベント時には多くの人が集まり、地域の再生・活性化に繋がっています。積極的な広報活動の結果、メディアやSNSでも話題となり、海外にも広がり始めています。

FUJIFILM-Project

Case 04

富士フイルム
株式会社

「世界は、ひとつずつ変えることができる。」



富士フイルム株式会社 × 工芸工業デザイン学科

実施期間：2017年9月～10月

富士フイルムの様々な技術を応用した商品群から、インスタントカメラ、化粧品、ヘルスケアの3領域に絞り、デザインセンターの方々の指導のもとで、新しいライフスタイルを体現させたサービスとプロダクトデザインを提案しました。最終プレゼンテーションは2017年5月にオープンした富士フイルムデザインセンター「CLAYスタジオ」で行われ、若い世代の視点・価値観を踏まえた柔軟な作品が提案されました。

Case 05

公益財団法人
東京都保健医療公社
多摩北部医療センター

医療機関における情報伝達機能向上のためのデザイン



公益財団法人東京都保健医療公社多摩北部医療センター × 視覚伝達デザイン学科

実施期間：2018年9月～2019年3月

地域医療連携の推進に取り組んでいる多摩北部医療センターと、近年のキーワードである「ソーシャルインクルージョン（社会的包容力）」という考え方をもとに、地域の中での医療機関の役割について職員の皆さんとデザインの観点から研究しました。フィールドリサーチを通して、「病院と地域の方との関係」、「病院と患者さんとの関係」、「病院内の先生たちの関係」についての課題を抽出し、それを解決するためのワークショップやイベントを企画、実施し、その成果を検証しました。

Case 06

デロンギ・ジャパン
株式会社

ブラウンハウスホールド大学



デロンギ・ジャパン株式会社 × 工芸工業デザイン学科

実施期間：2018年9月～10月

デロンギ傘下の調理家電ブランド・ブラウンハウスホールドと、「10～15年先の人々の暮らしを豊かにするプロダクトデザインとサービス提案」をテーマに、8週間にわたる集中授業を実施。これから50年の長いスパンを見据えた「12のメガトレンド」と「4つのテクノロジートレンド」、そして「10のブランドデザイン理念」について講義を受け、未来を起点にありうべき現在を導き出す発想によって、社会や時代の動きについて考察し、様々な提案を行いました。

2015－2018年度 その他の事例

実施年度	連携先	プロジェクト名	学科
2015 年	株式会社マルアイ	紙から生まれるコミュニケーションデザイン	視デ
	三鷹市教育委員会	三鷹市立図書館ロゴマークを活用したブランディング	視デ
	株式会社バンザイファクトリー	バンザイプロジェクト～陸前高田発の復興に向けたものづくり～	エデ
	株式会社タイカ	タイカプロジェクト～ CMF を発展させた新たな価値の創出～	エデ
	富士重工業株式会社	アクティブライフを演出する将来スバルのモビリティ研究	エデ
	株式会社丸和製作所	金属プロダクトの可能性を拡げるメタルプロジェクト	エデ
	茨城県笠間市	笠間市トータルデザイン研究事業	基デ
	茨城県笠間市	笠間栗ブランディング	基デ
	新潟市西蒲区	畑の実りでドレスアップ事業	基デ
	株式会社 AGS コンサルティング	土業における企業ブランディング	基デ
	公益財団法人馬事文化財団	UMARTs2015 うまからうまれるアート展	芸文
	公益財団法人府中文化振興財団	「府中の森芸術劇場クリスマスディスプレイ」に関する研究	芸文
	カシオ計算機株式会社	「ウェアラブル端末と web サービスを手段とするシステムデザイン」に関する研究	デ情
	三井不動産株式会社	公共空間としての「ショッピングセンター」と「アート」の共存	デ情
	国立研究開発法人理化学研究所	理化学研究所横浜地区展示プロジェクト 2015	油絵 彫刻
	三井不動産株式会社	ららぽーと立川立飛 スペースデザインプロジェクト	エデ 空デ 建築
	大建工業株式会社	和紙で織った素材の新規デザインプロトタイプ創作	エデ デ情
2016 年	三鷹市教育委員会	三鷹市立図書館ロゴマークを活用したブランディング（三鷹市立図書館移動図書館車両ラッピングデザイン）	視デ
	味の素ゼネラルフーズ株式会社	学生が飲みたいインスタントコーヒーの飲み方と伝え方	視デ
	株式会社タイカ	TAICA 次世代 CMF	エデ
	株式会社丸和製作所	メタルプロジェクト 2	エデ
	IKEA	IKEA × 武蔵野美術大学合同プロジェクト	エデ
	株式会社フローベル	顕微鏡の状態検出センサーのデザイン	エデ
	埼玉県横瀬町	「武甲山の見える高台に作る素敵な場所の提案」に関する研究	建築
	茨城県笠間市	笠間市トータルデザイン研究事業	基デ
	新潟市西蒲区	きらり発見！西蒲区の魅力映像化事業	基デ
	狭山市茶業協会	狭山茶ブランディング事業	基デ
	徳島大学病院	徳島大学病院展示プロジェクト	基デ
	株式会社トーショー	トーショー ウィンドウディスプレイ制作	芸文
	公益財団法人府中文化振興財団	雨田光弘『ねこの原画展』及び「府中の森芸術劇場クリスマスディスプレイ」に関する研究	芸文
	公益財団法人馬事文化財団	UMARTs2016 うまからうまれるアート展	芸文
	国立研究開発法人理化学研究所	理化学研究所横浜地区展示プロジェクト 2016	油絵 彫刻
2017 年	株式会社エンプラス研究所	機能をデザイン化する装具の研究	エデ
	スズキ株式会社	スズキ、こんなの出せばいいのに。	エデ
	新潟市西蒲区	きらり発見！西蒲区の魅力映像化事業	基デ
	茨城県笠間市	笠間市宍戸 わらまつり	基デ
	徳島大学病院	徳島大学病院展示プロジェクト	基デ
	新潟市西蒲区	婚姻届・出生届 新潟市西蒲区オリジナルデザイン作成プロジェクト	基デ
	株式会社トーショー	トーショー ウィンドウディスプレイ制作	芸文
	公益財団法人馬事文化財団	UMARTs2017 うまからうまれるアート展	芸文
	公益財団法人府中文化振興財団	「府中の森芸術劇場クリスマスディスプレイ」に関する研究	芸文
	国立研究開発法人理化学研究所	理化学研究所横浜地区展示プロジェクト 2017	油絵 彫刻
	カシオ計算機株式会社	MAU 日本語学習支援プロジェクト	芸文 言語
2018 年	東京都立川市	立川駅西地下道壁面アート化事業におけるデザイン作成及びワークショップ型壁画作成プロジェクト	視デ
	株式会社アイ・オー・データ機器	CD レコスタディにおける産学共同プロジェクト	視デ
	株式会社オートバックスセブン	「若い世代が考えるカーライフを『楽しく』、『便利に』、『快適に』するデザイン性に優れた商品」に関する研究	エデ
	長瀬産業株式会社	Eastman Chemical 社製トライタンの用途開発と新しい価値の創造	エデ
	スズキ株式会社	スズキの〇〇があるからできること	エデ
	江戸東京たてもの園	「夜間特別開園 紅葉とたてもののライトアップ」実施に伴うインスタレーション及びワークショップ	建築
	徳島大学病院	徳島大学病院展示プロジェクト	基デ
	株式会社オーク製作所	ブランディングの構築を背景とした、オゾン関連製品のプロダクトデザイン戦略	基デ
	第一カッター興業株式会社	企業ブランディングの構想提案	基デ
	新潟市西蒲区	きらり発見！西蒲区の魅力映像化事業	基デ
	サミット株式会社	サミット エコバックデザインプロジェクト	芸文
	公益財団法人馬事文化財団	UMARTs2018 うまからうまれるアート展	芸文
	公益財団法人府中文化振興財団	「府中の森芸術劇場クリスマスディスプレイ」に関する研究	芸文
	株式会社ラーンズ	ことばと社会をアクティブに学ぶ素材開発プロジェクト	言語
	株式会社日立製作所	国分寺地域活性化のための地域仮想通貨に関する研究	視デ エデ デ情
	カシオ計算機株式会社	MAU 日本語学習支援プロジェクト	芸文 言語

● プロジェクトの種類

共同研究

〈概要〉

企業等と大学が、共通の課題について対等の立場で共同して研究を行うことにより、優れた研究成果が生まれることを促進する制度です。

〈発明、知的財産の取扱い〉

共同研究契約書に基づき、貢献度等に応じて決定します。

受託研究

〈概要〉

企業等が持つ課題の研究を大学が委託されて行うもので、その結果を委託者に報告する制度です。

〈発明、知的財産の取扱い〉

原則大学に帰属しますが、特許等の実施については、独占実施権等の設定等、委託者のご要望を踏まえ、柔軟に対応します。

期 間	研究内容等に応じて、柔軟に設定が可能です。
税法上の優遇措置	特別試験研究費税額控除制度 企業等が大学と共同研究、受託研究を行った場合、企業等が負担した特別試験研究費の一定割合が、法人税（所得税）から控除されます。 国税庁ホームページ：https://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/taxanswer/hojin/5443.htm
納入いただく経費	直接経費 人件費、旅費交通費、機器備品費、消耗品費、印刷費等、研究の遂行に要する経費 間接経費 大学の施設使用及び事務処理に要する経費（直接経費の30%）

● プロジェクト実施までの流れ

1

ご依頼・
ヒアリング

ご依頼を希望される内容を、本学ウェブ上の照会フォームにご記入いただき、お問い合わせください。詳しくヒアリングし、プロジェクトを実施するのに最適な教員を検討します。

2

お打ち合せ

担当教員と打ち合せを行い、実施方法、スケジュール、費用等、研究内容について検討します。また、事務担当者との打ち合せを行い、発明、知的財産の取扱い、秘密保持等、契約内容について検討します。

3

お申込み・
受入決定

申請書をご提出いただき、学内で協議の上、受入の可否を決定します。

4

契約締結

5

研究費の納入

6

プロジェクト開始

産官学連携、社会連携に関するお問い合わせ

武蔵野美術大学 大学企画グループ 研究支援／社会連携チーム

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 電話：042-342-7945 受付時間9:00-17:00（日・祝除く）

メール：social@musabi.ac.jp ウェブ：www.musabi.ac.jp/collaboration

